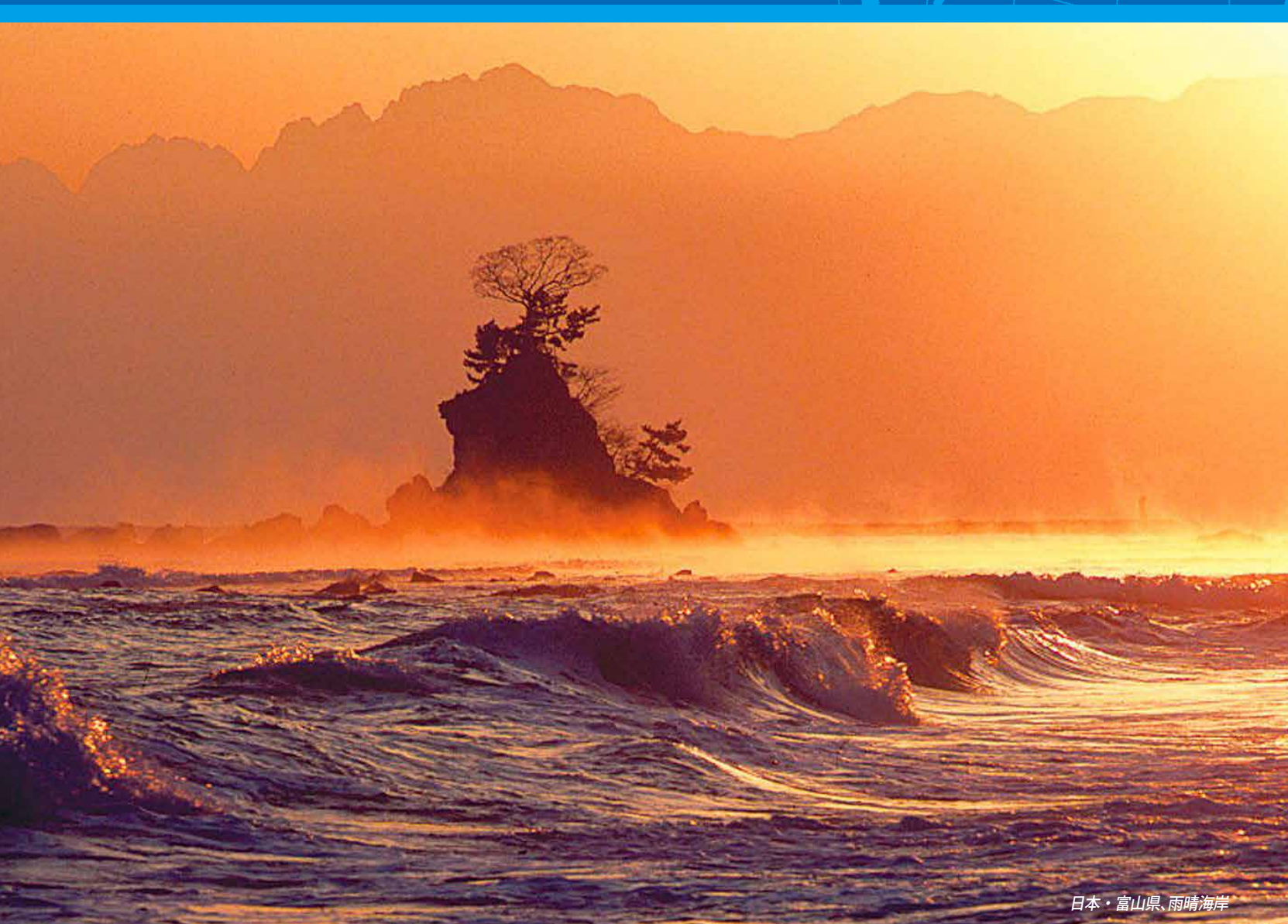


NEAR News

一つの北東アジア、一つの共同体 NEAR | One Northeast Asia Region, One Community NEAR

2017. 1-2

Vol. **72**



日本・富山県、雨晴海岸

新年メッセージ

第12代NEAR議長(中国・湖南省長) | NEAR事務総長

今月の動静

NEARの活動 | 事務局ニュース | 会員自治体の動静 | 会員自治体の行事日程(1~2月)

経済コーナー

慶尚北道のグローバル企業投資環境 | 国連と協力して「セマウル運動」を展開

光を作り出す「浦項加速器研究所」 | グローバル鉄鋼企業、POSCO

企画取材

2016 NEAR国際フォーラム | 第4回NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテスト エッセイ部門受賞作品紹介



北東アジア地域自治体連合

The Association of Northeast Asia
Regional Governments

NEAR News

「NEAR News」は、会員自治体が共に作るNEARの公式ニュースレターです。NEARの活動状況や会員自治体の動静、国際動向、寄稿、お知らせなどの内容を掲載し、隔月で発行しています。(ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.neargov.org/jp/>)

NEAR Newsではいつでも、北東アジア地域に関心を持つ方からの寄稿をお待ちしています。掲載を希望される場合は、巻末の事務局連絡先までお問い合わせください。



8

11

14

Vol. 72





北東アジア地域自治体連合(NEAR)とは

北東アジア地域自治体連合(NEAR)は、北東アジア地域の共同発展を目指して1996年に設立された、広域自治体間の協力機構です。

日本、中国、韓国、モンゴル、ロシア、北朝鮮の6か国から77自治体に参加し、経済・人文、教育文化交流、環境、防災、国境地区協力、科学技術、観光、海洋漁業、鉱物資源開発・調整、エネルギー・気候変動、女性・児童、生命・医療産業、農業などの様々な分野で、幅広い交流協力プログラムを展開しています。

また、欧州最大の地方政府協力機構であるAER(欧州地域会議)、R-20(気候行動地域)、ICLEI(持続可能性をめざす自治体協議会)などの国際機構とパートナーシップを締結し、北東アジアを越えた世界中と繋がる国際協力ネットワークを構築しています。

NEARの門戸は開かれています。

NEARの設立趣旨に賛同する北東アジア地域の広域自治体はどこでも、総会の承認を経てNEARに加入することができます。



北東アジア地域自治体連合
The Association of Northeast Asia
Regional Governments



許達哲
第12代NEAR議長
中国・湖南省長

新年を迎えるにあたり、重大な任務を引き継ぐことになった今、湖南省人民政府と7,300万人の湖南省住民を代表し、北東アジアの皆様には祝福の挨拶を申し上げます。

北東アジア地域自治体連合(NEAR)は、1996年の設立以来、経済や文化などの分野で会員自治体間の交流と協力を強化し、国家間の友好交流と共同发展を促進するなど、多方面で重要な役割を果たし、北東アジア地域の経済、社会の発展に貢献してきました。経済分野におけるグローバル化が加速することで、北東アジアは既に世界3大経済軸として成長しています。私は、NEARが地域の交流協力の窓口・プラットフォームとして会員自治体間の交流協力を一層増進させ、北東アジア地域間の協力とコミュニケーションのための重要な架け橋になると強く信じています。

中華人民共和国の建国者、毛沢東主席の故郷である湖南省は中国の中部に位置しており、総面積21.18万km²、14市122県で構成され、7,300万の人々が暮らしています。悠久の歴史と文化的伝統を誇る湖南省は、優れた交通の便と豊富な資源により、科学技術や教育が発達しています。また、産業基盤の完備により、「魚米之郷」「非鉄金属の産地」「非金属鉱山資源の産地」「観光の聖地」として高い評価を受けています。さらに、機械工業、鉄道交通、電子情報、先端素材、石油化学工業、自動車及びその付属品、硬質合金や精密加工などの産業分野においても優れた実力を示しています。

現在、湖南省は「一帯一路」建設に参加しています。力を集結して革新をリードし、改革開放戦略を通じて総合交通ハブの建設を加速しており、科学文化の革新、新たな都市・農村の「4大体系」建設(現代製造業、文化創造、優秀な農産品の開発、観光の全域化)、科学技術「5大基地」の革新(経済強省、科学教育強省、文化強省、生態強省、解放強省)を通じて、美しく幸せな湖南の発展を推進しています。

湖南省は今後、議長団体として、NEARのプラットフォームを通じて中国内外の双方向の市場・資源を十分に活用することで領域を拡大し、会員自治体間の交流と協力を一層活性化させていきます。私たちは、各会員自治体、そして湖南省の発展を支持する世界の人々がこれからも湖南に目を向け、共に手を取り合い、共同发展・繁栄を成し遂げることを心から望んでいます。

最後に、北東アジア地域に住む全ての方々のご健康とご多幸を祈念いたします。



全哉垣
北東アジア地域自治体連合
事務総長

2017年、希望に満ちた丁酉の年を迎え、北東アジア地域自治体連合会員自治体の皆様に謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

さて、1996年に設立されたNEARは現在、第11回イルクーツク州総会を経て77会員自治体へと拡大し、6億6千万の人口を擁する、北東アジア最大の地方政府協力機構へと成長しました。また、AER(欧州地域会議)、R20(気候変動地域)、ICLEI(持続可能性をめざす自治体協議会)などの国際機構とパートナーシップを締結し、国際的な地位もますます高まっています。

昨年NEARでは、防災、教育・文化交流、鉱物資源開発の3分科委員会、青年リーダースフォーラム、青少年エッセイ・絵画等コンテスト、NEAR国際フォーラム、第11回総会などの活動を通じて、会員自治体間の実質的な交流を推進するため努力して参りました。また、NEARの恒久的な発展と会員自治体の共同目的達成のため、2018年から会費制を導入することとしたほか、準会員制の新設により、北東アジアを越えたアジア全域との幅広い交流の機会を得られるようになりました。

今日、北東アジア地域は、政治、経済、社会、文化など様々な分野で全世界の関心が集中する場所であると同時に、様々な挑戦や機会が共存する場所でもあります。

事務局は、NEARが設立当時から堅持してきた互惠と平等の精神に基づき、交流と協力を拡大し信頼関係をより強固にすることで、北東アジアの平和と共同繁栄を達成し、会員自治体が共に発展していく環境を造成していかなければならないと考えております。

そのため、今後は新たな議長団体である中国・湖南省と緊密な関係を維持し、今年開催される第11回実務委員会をはじめ、様々な交流協力活動を着実に遂行できるよう、最善の努力を尽くしていく所存です。

また、NEARの長所である分科委員会を通じた実質的な交流協力の活性化に向け、自治体職員の方々だけでなく、民間団体や企業関係者など、多様な主体の参画を推進していくことも重要であると考えております。皆様には引き続き高いご関心をお寄せいただくとともに、積極的なご参加を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年も皆様にとって幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

NEAR活動

2016NEAR国際フォーラムの開催(11月25日～26日)



11月25日から26日までの2日間、韓国・慶尚北道安東市で「2016NEAR国際フォーラム」を開催した。

今年で8回目を迎えた同フォーラムでは、「観光を通じた北東アジアの協力と発展」をテーマに北東アジア地方自治体の観光政策や成功事例が

紹介され、観光分野における協力方案について会員自治体間で様々な意見が交わされた。

また、会場では会員各国の観光広報・特産品展示ブースを出展し、来場者に会員自治体の観光資源PRを行った。

(詳細は「企画取材」をご覧ください。)

NEAR防災分科委員会を開催(予定、3月6日～8日)

2017年3月6日から8日まで、日本・兵庫県で防災分科委員会が開催される。防災分科委員会は2002年から毎年開催されているNEARの代表的な分科委員会であり、会員自治体の災害対策力強化や北東アジア地域の減災を目的として設置された。

同分科委員会のコーディネート団体である兵庫県は、1995年に発生した阪神・淡路大震災における教訓と蓄積された経験を基に、様々な防災対策や施設整備を行ってきた。同分科委員会では、兵庫県の先進的な災害対策に関するセミナーや国際防災機関関係者との意見交換、現地防災施設の視察などを実施している。

事務局ニュース

下半期職員ワークショップを実施

NEAR事務局は10月27日から28日まで、韓国・江原道の楊口(ヤング)、束草(ソクチョ)及び東海岸一帯で、事務局職員を対象としたワークショップを実施した。

ワークショップでは、NEARの発展や業務体制の強化について職員が意見交換を行ったほか、南北朝鮮の軍事境界線付近にある乙支(ウルチ)展望台などを視察し、朝鮮半島の情勢について理解を深めた。また、雪岳山(ソラクサン)や洛山寺(ナクサンサ)などの名勝地を見学し、多様な韓国文化を体験した。

全哉垣事務総長は、「意見交換で職員から提案されたアイデアは積極的に検討し、反映させていく。また、NEARが北東アジア圏で最高の国際機構として位置づけられるよう、共に努力していこう。」と述べた。



北東アジア共同体研究財団の創立9周年記念式に出席(11月3日)

11月3日、韓国・ソウル特別市で社団法人北東アジア共同体研究財団の創立9周年記念式が開催され、全哉垣NEAR事務総長が出席した。

北東アジア共同体研究財団が主催し、統一部、韓半島先進化財団等の後援により開催された同記念式では、「北東アジア情勢変化と韓国外交の方向」をテーマとした国際学術会議や「北東アジア国際協力賞」「2016 統一共感手記公募展」の授賞式などが行われた。

NEARは、北東アジア地域の地方自治体間における活発な交流や建設的な協力を通じた共同発展・平和環境の造成に寄与したことが高く評価され、2015年に「北東アジア国際協力賞」を受賞している。



グローバル都市フォーラムに出席(11月16日)

11月16日、韓国・釜山市で「グローバル都市フォーラム」が開催され、全哉垣NEAR事務総長が出席した。釜山国際交流財団主催の同フォーラムでは、「国際協力を通じた地震安全管理がバランスの構築」をテーマに、韓国・釜山広域市の専門家や日本・福島県、兵庫県、熊本県の官民関係者による災害対策・地震対応についての発表や、参加者間の活発な意見交換が行われた。



環日本海海洋専門家過程の特別講義を実施(11月19日)

11月19日、社団法人都市戦略研究所で開催された「環日本海(東海)海洋専門家育成教育」において、全哉垣NEAR事務総長が受講生を対象に特別講義を実施した。

講義は「環日本海(東海)都市ネットワーク」をテーマに行われ、全事務総長は自身のNEARでの勤務や外交官としての勤務の経験を活かし、環日本海の地政学的な意味や関連国家間の戦略、慶尚北道・浦項市の役割、北東アジア情勢の変化等について説明し、受講生から好評を得た。



モンゴル・ウランバートル市議会代表団がNEAR事務局を訪問(12月7日)

12月7日、モンゴル・ウランバートル市議会のナザル・バヤルムンフ市議会議員らがNEAR事務局を訪問し、約1時間半にわたって相互協力方案について意見を交わした。

クオン・ナムウォンNEAR事務局企画広報部長は、「モンゴル会員自治体がNEARの活動に積極的にご参加いただいていることに感謝している。今後も会員自治体との情報共有やモンゴル地方議会の活動に対して惜しみない協力を行っていきたい。」と述べた。



会員自治体の動静

中国－黒竜江省

第33回中国ハルビン国際冰雪まつりが開催

第33回中国ハルビン国際冰雪まつりの開幕式及び第2回中国(ハルビン)国際冰雪観光高位級会議が、2017年1月5日に開催される。期間中は第18回ハルビン冰雪大世界、第28回太陽島国際雪像芸術博覧会が同時開催され、松花江の上に冰雪ディズニーランドを建設するとともに、スターリン公園では大型雪像を展示、兆麟公園では氷まつりが行われる。

また、黒竜江省の各地で観光まつり、冰雪観光、氷上・雪原スポーツ、冰雪民俗、文化写真撮影会など116以上の様々な行事が共に開催され、多くの旅行者が参加する見込みである。世界で最も長い冬の祭りとして2月末まで行われる同行事は、冰雪文化の地位を向上させ、冰雪に関する経済・貿易をリードし、冰雪観光を促進することを目的として毎年開催されている。



日本－新潟県

「第9回日露エネルギー・環境対話イン新潟」の開催

11月2日、日露の政府、民間企業、研究機関等が一堂に会する「第9回日露エネルギー環境対話イン新潟」が開催された。同対話は、今年で9回目を数え、日露両国の専門家が日露のエネルギー協力等について最新の情報を交換する場として定着してきている。

基調講演では、新たな発展を見せる日露関係の展望や日本のエネルギー政策におけるロシアの重要性が議論された。セッションAでは、「エネルギー資源」をテーマとし、エネルギーの世界的な需給動向、極東のエネルギーインフラの状況や日本企業のエネルギーの調達状況等が紹介された。セッションBでは、「省エネ・環境・電力」をテーマに11月に発効したパリ協定の重要性、サハ共和国における再生可能エネルギーの導入状況、日本企業が実施する風力発電の実証事業等が説明された。

本県は、新潟が日露エネルギー協力に関する情報の結節点として機能するよう、今後もこれらの取組を続けていくこととしている。



韓国－忠清北道

世宗大王行宮の造成事業を推進

世宗大王が123日間養生しながらハングルを創製した場所として知られている行宮が、2年後にその姿を現す。清州市は、世宗大王が清原区内秀邑椒井里に行宮を建て、二度にわたり123日の間椒井薬水を飲み体を洗うなど治療を行ったとの歴史的根拠に基づき、世宗大王椒井行宮の造成に取り掛かった。椒井行宮の歴史的根拠は、清州市文化産業振興財団が2014年1月に発表した研究成果で明らかになった。

行宮は1448年に放火で消失したため正確な位置は分かっていないが、「新東国輿地勝覽」等の資料によると、椒井園の隣に位置していたと記録されていることから、椒井薬水が湧き出る泉の周辺に建設されることとなった。清州市は行宮を再現するため、2016年11月に世宗大王行宮造成事業の基本実施計画の策定に着手し、2018年までに椒井里椒井文化公園一帯に行宮を再現し、現代的に活用する方針である。

行宮は椒井文化公園に3万6千㎡の規模で造成され、国費50億ウォン、道費25億ウォン、市費45億ウォンの計120億ウォンが投入される。

清州市関係者は、「世宗大王行宮造成事業が完了すれば、椒井薬水祭と世宗大王行宮の文化的コンテンツを連結し、清州市の代表的な観光商品になることが期待される。行宮再現時には歴史的な価値が継承されるよう専門家の検証と諮問を実施する。」と述べた。



韓国－慶尚南道

2018年までに電気自動車の充電施設を構築

慶尚南道は2016年11月10日に西部庁舎で、電気自動車充電インフラ構築のため、韓国電力公社と「電気自動車の充電施設構築事業」の業務協約を締結した。

今回の協約は、2016年6月に政府が発表したスモッグ対策に基づき、2020年までの電気自動車25万台普及を目指した充電施設の安定的な供給のために締結された。

協約式にはチョ・ギユイル慶尚南道西部副知事やキム・シホ韓国電力公社副社長、市・郡の関係者ら30名が出席した。

協約の主な内容は、道と市・郡が施設の敷地を提供し、韓国電力公社が充電施設の設置・運営・管理を行うというものである。

韓国電力公社は2018年までに40億ウォンを投入し、充電施設不足の市・郡で多くの人が集まる場所や観光地等に約50か所設置し、電気自動車の運行環境を改善させる。

チョ・ギユイル副知事は、「2017年には運行距離が300kmを超える電気自動車の発売が予定されており、今後2～3年以内に電気自動車が主流に位置づけられものと予想される。今回の協約は電気自動車時代に備える準備段階であり、環境に配慮したエコカーの普及により、大気の改善や温室効果ガスの削減に大きく寄与するものである。」と述べた。

電気自動車の価額は約4,000万ウォンであり、購入時に約1,700万ウォンの補助金と400万ウォン相当の個人充電器の設置支援、約400万ウォン程度の税制優遇を受けることができる。

January, February

2017. 1. 1. ~ 2. 28

自治体名	行事名	期間	場所	連絡先
韓国 江原道	華川ヤマメまつり	1/7~29	江原道華川郡	華川郡観光政策課 (財)ナラ (T)+82-1688-3005
日本 兵庫県	ひょうご安全の日のつどい -1.17メモリアルウォーク2017 -1.17のつどい -交流ひろば・ステージ -防災訓練	1/17	兵庫県神戸市	兵庫県復興支援課 (T)+81-78-362-9984 (F)+81-78-362-4459
日本 兵庫県	国際防災・人道支援フォーラム 2017 International Disaster Reduction Forum(DRA Forum 2017)	1/20	兵庫県神戸市 ポートピアホテル	兵庫県防災企画課 (T)+81-78-362-9870 (F)+81-78-362-9914
日本 兵庫県	IRP 国際復興フォーラム2017 International Recovery Forum 2017	1/24	兵庫県神戸市 ホテルオークラ神戸	兵庫県防災企画課 (T)+81-78-362-9870 (F)+81-78-362-9914
日本 京都府	「KYOTO地球環境の殿堂」 表彰式 The Earth Hall of Fame Kyoto, Award Ceremony	2/11	京都市	「KYOTO地球環境の殿堂」 運営協議会事務局 (T)+81-75-414-4830
日本 京都府	京都環境文化学術フォーラム 国際シンポジウム The Earth Forum KYOTO, International Symposium	2/11	京都市	京都環境文化学術フォーラム 事務局 (T)+81-75-414-4830
日本 新潟県	北東アジア経済発展国際会議 Northeast Asia International Conference for Economic Development	2/14 ~15	新潟市 朱鷺メッセ	(公財)環日本海経済研究所 (ERINA) (T)+81-25-290-5545 (F)+81-25-249-7550



会員自治体間の経済分野における交流活性化のため、今号から新たに「経済コーナー」を新設し、各国の持ち回りで会員自治体の産業投資環境などを紹介していく。

慶尚北道の グローバル企業投資環境

慶尚北道は、きらびやかな新羅千年の仏教文化や神秘的な伽耶文化、ソンビ精神の儒教文化などの民族文化の発祥の地であり、韓国文化の顔である。また、護国忠誠の故郷、国難克服の砦であり、セマウル運動や自然保護運動といった国民精神運動の発祥の地でもある。

面積は韓国最大であり(19,029km²、韓国全土の19.1%)、その広さはソウル特別市の31倍にもなる。行政区域は23市・郡(10市、13郡) 332邑・面・洞である。

秀麗な自然景観、335kmに及ぶ長い海岸線、清浄な東海(日本海)など、多くの潜在力と開発需要を有しており、世界的な鉄鋼・繊維産業の中心地として韓国の経済成長を牽引してきた。また、首都圏に次いで多くの大学が所在しており(38か所)、豊富な研究人材と技術力を有している。

加えて、豊富な文化資源(韓国の文化財の20%)と恵まれた観光資源、地域の文化を基に、伝統と現代が調和する世界的な文化・観光の中心地として育っている。

今号では、慶尚北道の主要経済現況として、グローバル企業の投資環境、主要施策であるセマウル運動、慶尚北道を代表する研究技術機関「浦項加速器研究所」、グローバル企業「POSCO(浦項製鉄所)」を紹介する。

● 産業団地の現況(km²)

区分	国家産業団地		一般産業団地		農工団地		計	
	団地数	面積	団地数	面積	団地数	面積	団地数	面積
計	9	83,724	78	59,766	69	11,690	156	155,180

● 国家産業団地・経済自由区域

亀尾ハイテクバレー

- ・2009～2014年、9,34km²、1兆7,228億ウォン
- ・電子情報、メカトロニクス、新素材

浦項ブルーバレー

- ・2009～2014年、6,12km²、8,568億ウォン
- ・鉄鋼、機械、船舶・自動車部品、エネルギー、IT等

大邱慶北経済自由区域

- ・2008～2020年、8地区、19,72km²、5兆8,170億ウォン
- ・慶尚北道5地区(亀尾、永川2層、慶山) 21.6km²

※ 産業団地の現況

-156か所(国家9、一般78、農工69)、154km²(4,650万坪)

-慶尚南道に続き、韓国内2位

国連と協力して 「セマウル運動」を展開

慶尚北道のセマウルグローバル化事業は、韓国における貧困克服の成功経験を国際社会と共有し、発展途上国を支援することで地球の貧困撲滅に貢献するために始まったものであり、体験を通じて人を変化させることに重点を置いている。

現地の需要と参加に基づく地域社会主導のセマウル方式を推進するため、慶尚北道は大陸別に拠点センター(セマウル研究所)を設立している。初期段階で現地住民や小規模の指導者の研修などを優先的に行うとともに、長期的には指導者や教官要員の教育を併行し、セマウル運動の包括的な中心施設として運営する方針である。また、海外でのモデル村の造成やセマウル・リーダーの派遣、発展途上国のセマウル指導者研修、大学生のセマウル海外ボランティア活動の支援などを行っている。これまでに11か国30か所の村がセマウルモデル村として造成され、86か国4,297名が指導者研修を受けており、6か国610名の大学生がボランティアとして派遣されている。

今後は中央政府レベルのセマウルODA担当機関を設置する予定であり、国費により自治体のセマウルグローバル化事業を支援する計画である。





光を作り出す「浦項加速器研究所」



慶尚北道内に位置する浦項加速器研究所は、1988年に設立され、世界で5番目に建設された第3世代放射光加速器である。放射光加速器は「光の工場」と呼ばれ、光の多様なスペクトラムにより微細な物質の観察や物質内部の分析を行う巨大な実験装備であり、科学技術の先進化に不可欠な研究装置である。

浦項加速器研究所では2016年に第4世代放射光加速器を建設し、韓国の科学者に先進的で優れた研究環境を提供している。既存の第3世代放射光では静止状態の原子や分子しか観測することができなかったが、第4世代放射光では超短パルス形態の光源により、これまで未知の世界であった原子の動的現象を観測することが可能となった。

当初、ビームライン建設と利用者の実験支援は低調な出だしであったが、政府の積極的な財政支援により継続してビームラインを増設したことで、現在では32基のビームラインを設置、毎年約1,000課題の利用者支援が達成された。その結果、浦項の放射光加速器は国家の科学技術競争力を強化させる最先端研究支援施設として位置づけられることとなった。

放射光加速器はほぼ全ての研究分野との研究協力が可能であり、IT(情報技術)、NT(ナノテクノロジー)、ET(環境技術)、BT(バイオテクノロジー)といった国家戦略技術分野における基盤技術開発から応用、産業化に至るまで多くの経済的な波及効果をもたらすと同時に、放射光を利用して開拓できる次世代の新成長動力の融合技術を提示している。

posco

グローバル鉄鋼企業、 POSCO



1968年に設立されたPOSCO(浦項製鉄所)は、粗鋼生産量3,800万トンを誇る世界最高レベルの鉄鋼企業であり、熱間・冷間圧延技術により厚板、線材、電気鋼板、特殊鋼、表面処理鋼板などの炭素鋼やステンレスを生産し、全世界に供給している。

現在、世界的に鉄鋼需要が低迷する中で、中国をはじめとする世界各国の過剰生産や過剰設備問題は解決されていないが、POSCOでは中国の鉄鋼輸出の急増、円安の影響、韓国国内の需要産業の停滞といった困難な環境においても「POSCO the Great」の再建を宣言し、世界最高の競争力を持った鉄鋼企業としての地位を強固にするため、継続的に努力している。

韓国国内では、光陽製鉄所が世界最大規模の厚板生産体制を構築するとともに第4高炉を改修し、単一の高炉における一日あたりの出鉄量の世界新記録を樹立するなど、継続して生産能力を拡大している。

世界的な鉄鋼専門分析機関であるWSD(World Steel Dynamics)は、6月9日に開催された第30回グローバル鉄鋼戦略会議(SSS: Steel Success Strategies)において世界で最も競争力のある鉄鋼企業(World-Class Steelmaker Rankings)の選定結果を発表、POSCOは6年間8回連続1位に選ばれた。また、気候戦略、労働・人権、人的資源開発などの部門においても優秀な評価を受けており、11年連続で「持続可能な経営優秀企業」に選定され、韓国の企業の中で長期に渡ってその名を轟かせている。

2016NEAR 国際フォーラム

NEAR International Forum 2016

The Role of Tourism on Collaboration and
Development in Northeast Asia

관광을 통한 동북아시아의 협력과 발전

11月25日から26日までの2日間、韓国・慶尚北道安東市で、NEAR事務局と社団法人韓国観光学会の共同主管により、「2016NEAR国際フォーラム」が開催された。

今年で8回目の開催を迎えた同フォーラムには、会員自治体の代表者(5か国33自治体85名)をはじめ、国内外の観光分野の学者、専門家、国際機構関係者ら約330名が参加。「観光を通じた北東アジアの協力と発展」をテーマに北東アジアの自治体の観光政策や成功事例が紹介されるとともに、観光分野における協力方案について、新成長動力の発掘・創出に重点を置いて会員自治体間で様々な意見が交わされた。

また、会場では会員各国の観光広報・特産品展示ブースを出展。来場者に会員自治体の観光資源をPRすることで会員自治体間の実質的な交流が行われ、来場者が北東アジアへの関心と理解を深める場となった。

● オープニングセッション

オープニングセッションでは、全哉垣・NEAR事務総長による開会の辞、鄭炳允・慶尚北道経済副知事による歓迎の辞、權寧世・安東市長による祝辞に引き続き、鄭昌洙・韓国観光公社社長による基調講演、Eugene Y Roh 中央ミシガン大学教授による特別講演が行われた。

● セッション別発表・討論

フォーラムでは、セッションごとにそれぞれのテーマ(「観光と地域の発展」「持続可能な観光と国際協力」「北東アジア相互の観光協力」)について北東アジアの観光分野の専門家による発表・討論が行われ、各国の地方自治体の観光政策や成功事例が紹介された。

第1セッションでは、立命館アジア太平洋大学の畠田展行教授が日本の地域における観光まちづくりを、ロシア・サハリン国立大学校のエルビラ・イム教授がサハリン州における観光開発政策の現況を紹介した。

第2セッションでは、モンゴル国立大学校のモンフナサン・サラントヤ教授がモンゴル固有の自然を活用した生態観光・観光プロジェクトについて、韓国・檀国大学校のキム・





ヒョン教授が生態観光の定義と政策の限界点について発表した。

第3セッションでは、中国・河南大学の陳楠教授が中国の一帯一路政策を通じた中国の観光政策を、韓国文化観光研究院のチェ・ギョンウン博士が北東アジアにおける国際観光動向・北東アジア国家間の観光交流活性化に向けた主要課題を発表した。

● 現地視察

フォーラム参加者らは慶尚北道新庁舎を訪問し、韓国の伝統建築である韓屋造りの庁舎の視察を行った。また、ユネスコ世界文化遺産である河回村を訪問し、韓国の伝統文化への理解を深めた。



第4回青少年エッセイ・ 絵画等コンテスト エッセイ部門受賞作品紹介

「NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテスト」は、会員自治体の青少年(14～18歳)を対象に2013年から実施しており、今年で4回目を迎えた。今年は「エッセイ部門」に加え、「母国の文化紹介」「北東アジアの環境問題」を作品のテーマとした「絵/ポスター部門」を新設。5か国から46作品の応募があった。

今月号では、エッセイ部門の受賞作品(最優秀賞、優秀賞)を紹介する。

[最優秀賞]

北東アジアを知ろう、未来を夢見よう

ー 韓国・慶尚北道、慶山女子中学校3年 ペ・ガヒョン

世界の13分の1の面積に過ぎない土地で世界の人口の5分の1を超える人々を擁する場所、多彩な人々の多彩な文化が息づく場所、全世界の総生産量の4分の1に達する経済規模、広大なアジア大陸と太平洋にまたがって延びる交通の要衝の地、それはどこだろうか。まさに私達の生活の基盤、北東アジアである。産業革命以後、ヨーロッパの列強は世界の中心となり、第2次世界大戦以後、アメリカはG1となった。専門家達は、最近浮上している北東アジアが次の「世界の中心」になるだろうと予測している。これが、私達が北東アジアを知らなければならない理由であり、目的である。

北東アジアを知るために、私達はまず北東アジアに関心を持たなければならない。北東アジアの各国がどのような特徴を持っているか、今日北東アジアでどんな事件が起こっているかなどを本やニュース、各種メディアなどを通じて根気よく知ろうとする努力が必要である。北東アジア学会、北東アジア歴史財団、北東アジア平和連帯、そしてこのエッセイコンテストを開催したNEARのような様々な団体のホームページを使って間接的に調べる方法もあるし、「北東アジア大長征」といった様々なプログラムに参加し、直接調べる方法もある。

昨年の今頃である。私の故郷、慶山市の姉妹都市である京都府城陽市を訪問した。最も記憶に残っているのは、城陽中学校の生徒達に会い、一緒に活動し、直接コミュニケーションをとった時間だった。最初は言葉もあまり通じず、互いに面識もなく、雰囲気はぎこちなかった。このとき、互いに親しくなるための最も決定的なきっかけとなったのは、意外にも「韓流ブーム」であった。日本の生徒達が「韓国の芸能人について話そう」と提案したことで会話の共通分母が見つかり、私達は少し近づいた気がした。一方で、「私達も日本について事前に知っておけば、互いにより親しく



なれたのに」という後悔もあった。このように、互いを知ること、特に互いの文化を知することは、それぞれが最も緊密に繋がる媒体となる。

しかし、単純に北東アジアの歴史、伝統、文化などを断片的な事実としてだけ知ることには何の意味もない。韓国には、「三斗の珠もつないでこそ宝(いかに高価な物でも用を足さねば価値がない)」ということわざがある。また、東洋の哲学者である孔子は、「学而不思則罔、思而不学則殆(学びて思わざれば、すなわちくらし、思いて学ばざれば、すなわちあやうし)」と説いた。私達は北東アジアについて知った様々な事実に基づき、各国の歴史、伝統、文化を理解し、これらを受け入れる態度を養っていかなければならない。さらに、北東アジアの未来について考え、夢見ることも良いことである。これが北東アジアを真に「知る」方法であり、その一つの例として、北東アジアの歴史問題が挙げられる。

北東アジアは歴史的に相互の密接な関わりを持っている。このため、過去の様々な歴史的問題が現在も解決されず、国家的な紛争へと拡大していく場合が多い。慰安婦問題、南京大虐殺などが代表的である。また、歴史的な要因により生じた独島紛争や尖閣諸島(釣魚島)紛争もある。これは、互いをよく「知る」ことができなかったために生じたことである。フランスとドイツの事例を見よう。互いに理解し、自国の歴史的な犯罪を認めることで、両国の関係は急速に発展した。これは両国の成長にも良い影響を及ぼした。私達もこのように互いを理解し、本当の意味で知っていくことが必要である。

北東アジアは互いに複雑で微妙な関係に置かれている。領土、歴史、文化遺産、軍事訓練などを巡る様々な紛争も頻繁に発生している。薄氷を踏むような緊張感の中で、私達はお互いを「北東アジア」という一つの共同体として認識するより、遠ざけたい不都合な隣人として考えている。しかし、もしお互いをよく知り、特に北東アジアの未来の主役である青少年達が北東アジアに精通し、「知る」ことができたなら、北東アジアにはより明るい未来が広がるだろう。中国の友人、韓国の友人、日本の友人、そして軍事境界線の向こうにいる友人まで。私達は家族となり、互いに助け合い、希望に満ちた未来を夢見て進んでいこう。素敵な話ではないか。そのために、私達が踏み出さなければならない第一歩は、まさに「北東アジアを知る」ことである。

[優秀賞]

ロシア文化の現在と未来について

ー ロシア・ハバロフスク地方、海軍中学校 パシュタ・アンナ

文章を書き始める前に、ロシア文化についてまず自分の意見を簡単に述べたい。ほとんどの外国人はロシア人のことをバラライカ、茶色の髭と帽子、あまり話を聞かない怠け者だと認識しているが、それは事実ではない。ロシア文化には長い歴史がある。悠久の歴史に基づく慣習、伝統や祭りは多様である。ロシアには休日が多く、特に冬期に集中している。正月、旧正月、クリスマス、エピファニー(公現祭)、クリスマス季(Christmas-tide)、懺悔の三が日(Shrovetide)などがある。ほとんどの祭りはスラブ文化が起源である。最近の多くの休日はロシア国民に人気がある。

ロシアには非常に残酷で凄まじい歴史がある。ロシアは多くの戦争で勝利してきた。そのため、ボロジノの戦いのように記憶に残る日は多い。中でも大祖国戦争が最も壮大であり、忘れられないものである。

勝利の日はロシア人にとって最大の休日である。ロシアには伝統音楽や踊り、童話、音楽、楽器といった悠久の文化がある。ロシアには独特で特徴的なスポーツがある。懺悔の三が日のような休日の間はスポーツを楽しむ。休日には険しい山に登る。

またロシアには、グジェリ(Gzhel)、ホフロマ(Khokhloma)、オレンブルク・ショール(Orenburg shawls)、ディムコヴォ・トイ(Dymkovo toy)、ウラル・マラカイト(Ural malachite)、トゥーラ・サモアル(Tula samovar)といった創造的な施設が多い。創造的な商品は有名人や観光客に大人気である。

ロシア料理とおもてなしの習慣を紹介したい。ロシアの家庭を訪問すると、冷蔵庫にある全てのものが出される。「広範なロシア精神」という言葉は世界的に有名である。個人的に、この言葉はロシアの豊かな感情、親切さ、共感性、正直さ、礼儀正しさ、あるがままの姿勢などを表しているのだと思う。

ロシア文学や芸術も世界的に有名である。作家ではアレクサンダー・プーシキン、レフ・トルストイ、ミハイル・ブルガーコフ、芸術家ではヴィクトル・ヴァスネツォフ、イヴァン・アイヴァゾフスキー、カール・ブリューロフ、カジミール・マレーヴィチ、科学者ではドミトリ・メンデレーエフ、ロモノーソフ、ポポフ、ヤーブロチカ、宇宙飛行士のガガーリンとテレシコフ、バレリーナではマイヤ・プリセツカヤ、アンナ・パヴロワ、アナスタシア・ボロチコワらが有名である。

近代ロシア文化は徐々に危機から浮上している。テレビでは「スバティ(Svati)」「フレンズ」といった面白く単純で中身のあるアニメや映画が流れ、マリーナコロブを称える漫画では「Barboskiny」「Smeshariki」「マーシャと熊(Masha and the Bear)」が挙げられる。今日、多くの子供や大人が「ソーズムリトフィルム」のような漫画や「Spokoinoy nochy malishi」のようなテレビ番組を高く評価している。映画館では「Tri bogatirya」「Ivan-Tsarevich and the Grey Wolf」といったアニメ映画が上映されている。

多くのロシア人は余暇に文化的な活動をしながら過ごす。読書をしたり、劇場や映画館を訪れたり、展示会や博物館を訪問し、それを友人や知人に紹介することも。文化は全ての国に最も強く影響を及ぼす重要な要素である。自然の世界を人間の内面に反映することは人間の活動である。文化は技術、アート、建築、精神世界、宗教、映画、演劇、音楽、人間の行動、趣味などが調和した複雑な存在である。

21世紀のグローバル化は国家発展の一部である。近代ロシアの文化は他国と同様にグローバル化してきている。グローバル化は、技術とコミュニケーションの進歩の結果によりそれぞれの文化が発展していることと関わりがあるだろう。

このような変化の流れは、21世紀のロシア文化の形成にどのような影響を及ぼすだろうか。次世代のロシア文化はどのように変化していくだろうか。

一方で、グローバル化による不利益もある。まず、多くの若者が過度にロー・カルチャーに関わりすぎたため、彼らの周囲の人々に常に良い影響を及ぼしているわけではないということだ。なぜなら、若者の価値観において、文化の肯定的な部分と否定的な部分を区別することが難しくなる可能性があるからである。例えば、ロシアには西欧のスキンヘッド、イモコア(Emocore)、暴走族、ヒッピー、ゴブニク等のロー・カルチャーがある。彼らは暴力的な行動で社会の脅威のように見えることがある。ロー・カルチャーは必ずしも主要文化と同義ではない。

次に、他国の文化に馴染んだ人は、時々自分達の本来の伝統や価値観を忘れることがある。私達は自己の民族のルーツを忘れてはならない。興味に応じて文化を選ぶ権利は全ての人が持っているが、元の文化に否定的な影響を及ぼさない範囲で、注意深く、賢く受け入れ

なければならない。残念ながら、ロシアの学生達は歴史と文化がそれほど重要でないと考えている。しかし、母国の過去を認識することなしには、次世代のための明るい未来を創ることはできない。

他方で、グローバル化の過程には様々なメリットもある。文化的な視野を拡げることで、文化をより深く理解する手助けになる。例えば、ロシアでは21世紀に新たな趣味が登場した。彫刻、スクラップブック、多段ケーキ作り、インドヨガなどが西側諸国から渡ってきた。また、ロシアではフラワーアレンジメントや景観デザインが活発に発展してきた。若いロシア人はフラッシュモブに参加したり、ロック・フェスティバルやドッグ・ショー、レトロカーの展示会に参加することを好み、バレンタインやハロウィンのような西洋の休日を楽しむこともある。

今日、多くのロシア人は、イタリアのピザやパスタ、日本の寿司、エキゾチックな中国料理などのない生活を想像することはできない。逆に、ロシア以外の国の人々が blinies, borsch, okroshka, pelmeny, solyanka, kvas や vodka といったロシア料理を嗜むこともある。

グローバル化は国家間の相互理解に繋がるとともに、互いの寛大な態度を提供し、全世界が平和であるように国家間の壁を取り払う役割を果たす。また、グローバル化は観光客にとっても有用である。海外を訪問するときはその国の文化や習慣をよく知っている必要があり、カルチャーショックを事前に防ぐことができる。他国の文化に関する情報を持っている人は、世界中の文化を楽しむ権利を持っていることになる。つまり、文化への理解の不足は、犯罪にも繋がりうる不道德な行為を引き起こす可能性もあるということだ。その一方で、ロシア人はロシア固有の文化と価値に感謝し、尊敬することを学ばなければならない。

次の世紀には、大多数の人々が文化的価値とグローバル化の過程に慎重になるだろう。22世紀、ロシアはロシアの精神が破壊されないよう、独創性と固有性を守っていくだろう。私はそう予測する。

(私は英語が好きなので、このエッセイを英語で書くことにした。英語は全世界の人々とのコミュニケーションツールであるだけでなく、グローバル化の過程の一部であると確信している。これからも長い間、英語は世界の公用語とみなされるだろう。)

[優秀賞]

「葉」について

ー モンゴル・スフバートル県 バロンオルトゥ郡 第3番学校
バトゥスフ・オトゥゴンチメック

空が思い切り泣いて大地を湿らせた後、太陽が上り、空が明るくなってすぐ、アーモンド形の目をした少女の私は、ゲルの天井にある窓を開け、カーテンを上げて文章を書き始める。

光と影は全ての物事の両面である。しかし、光がより多ければどれほど良いだろうか。

現在モンゴルは、世界の中央に根付き豊かな葉を持つ一本の「若木」となった。木は日差しを浴びて高く育ったが、同時に日陰も増えた。

モンゴル帝国が建国されモンゴルという木の種が蒔かれた後、長期間にわたって育ったものの枯れていき、根が傷つき、時には葉がつき、そうして時間が経つにつれて社会主義体制となり、若木として芽を出した。そのうちに90年代を迎え、「民主主義の種」が肥料となり、木に栄養を与え、その木は空に向かって高く伸び、定着した。

この若木の前には中華人民共和国があり、後ろにはロシア連邦という巨大で雄大な木々が位置している。その周りには大韓民国、日本国、朝鮮民主主義人民共和国という実の成った木が位置している。1996年9月から、これらの木々は根が絡み合い、葉が集まり、相互に依存し、成長しながら今日に至った。

現在、私達は一つの地域で共同繁栄を追求する「北東アジア地域自治体連合」という大家族であり、雄大な森を作り、世界の中心として平和と幸福が溢れる天国を作ることを目指して手を取り合ってきたが、高く育った木々の影はどうだろうか。

影とは、時の流れによる後退、つまり私達の社会で起こる否定的な現象である。最近世界で起こっている災害、気候変動、倫理意識の低下、差別などの問題は、すすくと育つ木の影となる。しかし、問題があればその解決策もある。その解決策を共に見つけるためにこれらの国が集まったのだと思う。

同じ空の下で、一つの地球の隣人であるこれらの国が、日陰を照らすために力を合わせて

努力しなければならない。一方で、何人かが木の上で高く灯りを掲げ、闇を照らすように努力してたととしても、木のどこかに影が残ることもあり、悪も無くなることはないだろう。そのため、モンゴルという木の22の幹から分かれて育った3,093,143の葉である私達モンゴル人は全員、自分達の精神を明るくする火を灯し、悪を早期に退け、光を必要とする人に自身の光を分け与えることで、影が消えると考えている。

光とは、人間性、本性、思いやり、正義、自然を愛する心、愛国心、分かち合う心、平等、社会の全ての良い面と進歩である。各国は境界線で分離されそれぞれの位置を占めているが、私達の心は境界線のような限界と壁を越えることができる。この世で最も重要な存在は生命である。全ての生命を私達人間が愛し、保護しなければならない。貧しい人を助け、流れる川を保護し、母のような自然を維持するための努力などは、生命に対する愛と保護である。しかし、私達が努力しお互いの模範となろうとしても、その影響力は強くはない。モンゴルの東端で育った葉が、同じ目標をもつ「北東アジア地域自治体連合」という、私達のために創設された北東アジアのための国際機関を、ようやく知ることができたのだ。この機関の名前は「近い」という意味も持っていた。自分のため、そして次世代のために私にできることは何だろうかと考えた末に、幼い私でも、私が持っている光で周囲を明るくし、私達のために手を繋いだ人達と一つになり、より大きな光を作り、その領域を拡げていくことが私の義務であると分かった。

やがて私は成長し実を实らせる。そして北東アジアも世界の架け橋、経済、発展の倉庫、救いの手、幸福の扉となり、明るく輝くだろう。

モンゴルの東端で育った葉である私は、草原の日は沈む頃、文章を書き終える。

The Association of Northeast Asia Regional Governments



北東アジア地域自治体連合

The Association of Northeast Asia Regional Governments

(37668)慶尚北道浦項市南区芝谷路394 浦項 テクノパーク本部棟3階

T. +82-54-223-2317 F. +82-54-223-2309 E-mail near@neargov.org Homepage www.neargov.org